

1. 本授業科目の基本情報

講義名 (コード)	TCM109	TCM_日本事情 I	
科目名 (コード)	TCM109	TCM_日本事情 I	
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1年生
対象コース	CM1	単位数	2単位30
授業担当者	浅沼 涉	時間数	
成績評価教員	浅沼 涉	講義期間	春期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄			講義

2. 本授業科目の概要

到達目標・目的	日本での薬の販売についての歴史や法律について学ぶ。
全体の内容と概要	登録販売士に必要な知識、特に第1章「医薬品に共通する特性と基本的な知識」について日本語で理解していく。また日本語の薬の名称や成分名とその効用を覚え、さらに正しく発音・聴き取りが
授業時間外の学修	普段の生活でも敬語表現を使うように気をつける。
履修上の注意事項等	「薬学基礎 I」の授業と連動しているので、それぞれの授業の関連性を意識して取り組むこと。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	医薬品の本質（食品との違い）について理解する	登録販売者試験について 1-I 1) 医薬品の本質
2	医薬品の本質（食品との違い）について理解する	2) 医薬品のリスク評価 3) 健康食品
3	医薬品の効き目や安全性に影響を与える要因について理解する	1-II 1) 副作用 2) 不適正な使用と有害事象
4	医薬品の効き目や安全性に影響を与える要因について理解する	3) 相互作用と飲み合わせ 4) 小児・高齢者・妊婦、授乳婦等への配慮
5	医薬品の効き目や安全性に影響を与える要因について理解する	5) プラセボ効果 6) 医薬品の品質
6	適切な医薬品選択と受診勧奨について理解する	1-IV 1) 一般医薬品で対処可能な症状等の範囲 2) 販売時のコミュニケーション
7	薬害の歴史を理解し、過去の薬害訴訟についておさえる	1-IV 1) 医薬品の副作用等に対する基本的な考え方 2) 医薬品の副作用等に関する主な訴訟
8	禁煙補助剤の働きと適正使用情報について理解する	3-XII 1) ニコチン置換療法 2) 禁煙補助剤の働き 3) 相互作用と受診勧奨
9	消毒薬の効果や成分、誤用時の対処法について理解する	3-XV 1) 感染症の防止 2) 消毒薬 3) 主な殺菌消毒成分 4) 誤用の際の応急処置
10	殺虫剤と忌避剤の効果や成分、適正使用情報について理解する	3-XV 2) 1) 主な衛生害虫 2) 主な殺虫成分と忌避成分 3) 殺虫剤と忌避剤の主な剤形
11	一般用検査薬の適切な使用や販売時の注意点について理解する	3-XVI 1) 尿糖・尿タンパク検査薬 3-XVI 2) 妊娠検査薬
12	医薬品医療機器等法の主要な条文について理解する	4-I 1) 医薬品医療機器等法の目的 2) 関連事業者・医療関係者の責務と国民の役割 3) 登録販売者と販売従事登録
13	前期の復習	
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	「医薬品登録販売者試験テキスト&要点整理」 薬事日報社
参考文献・資料等	
備考	進度は変更になることがあります。 月曜日2限